

会 議 録

会議の名称	令和7年度第1回茨木市産業振興アクションプラン推進委員会 補助金審査部会（地域魅力アップイベント創出育成事業）
開催日時	令和7年4月22日（火） （午前・午後） 1 時 00 分 開会 （午前・午後） 2 時 50 分 閉会
開催場所	茨木市役所本館3階第3会議室
議 長	野口 義文 氏（立命館大学 副学長）
出 席 者	野口義文氏（立命館大学 副学長） 伊津田崇氏（中小企業診断士） 辻田素子氏（龍谷大学 経済学部） 赤松正巳氏（北おおさか信用金庫 業務推進部） 中野拓二氏（茨木商工会議所）
欠 席 者	なし
事務局職員	河原商工労政課長 長野商工労政課長代理兼商工振興係長 原田商工労政課職員 高橋商工労政課職員 【4人】
開催形態	一部非公開
議題（案件）	(1) 会議の公開について (2) 茨木市地域魅力アップイベント創出育成事業等補助金趣旨説明 (3) 応募団体プレゼンテーション及び審査
配布資料	・各応募団体プレゼンテーション資料 ・茨木市地域魅力アップイベント創出育成事業補助金 審査基準及び配点表

議事の経過

1 開会

事務局：(開会のあいさつ)

2 趣旨説明

事務局：(資料説明)

3 会議の公開について

事務局：①本部会について

原則公開とし、市民等の傍聴を認める。ただし、申請案件の審査に関する部分は、非公開とする。(※茨木市審議会等の会議の公開に関する指針第3より)

②議事録について

公開部分については、市のホームページ等で公開する。ただし、内容は要約したものとし、個々の発言者の名前は記載しない。

③傍聴希望者：なし

4 応募団体プレゼンテーション及び審査

(1) 地域魅力アップイベント創出育成事業申請案件：

1 件目の CO-クリエーションデザイン smileinfeel (以下申請者) から、事業概要及びアピールポイント等についてプレゼンテーションがあり、その後質疑応答があった。

<質疑応答>

A 委員：イベントとして一番の課題は何か。また、その解決策は。

申請者：やはり毎年、費用面が課題に挙がる。昨年はオリジナルグッズの販売を試行的に実施し、完売という結果を得たので、今年も継続的に実施、強化していくことで課題へ対応していきたい。

B 委員：会場がバラ園での実施ということで、園内に落ちたバラの花びらを活用してはどうか。市公園緑地課と調整した経過はあるか。

申請者：既に調整しているが、難しいとの返事があった。

C 委員：資料を見ていると、自転車での来客が圧倒的に多いが、駐車場等の手配はどうしているのか。

申請者：駐車場はスタッフ用で 100 台ほど用意しているのみである。イベント来場者は圧倒的に徒歩か自転車が多い状況。

D 委員：人員確保の観点では、どういった考えを持っているか。

申請者：現在は 30 人ほどのイベントスタッフがいる状況。年々手伝ってくれる人は増えていっているので、これを継続していきたい。

E 委員：オリジナルグッズは昨年 70 個作成して、完売したと先ほど伺った。作成個数を増やす考えはないか。

申請者：とにかく在庫を抱えないことに重点を置いている。今後も確実に捌ける個数を作っていく考えである。

(2) 地域魅力アップイベント創出育成事業申請案件：

2 件目の IBARAKI DANCE STREET 実行委員会（以下申請者）から、事業概要及びアピールポイント等についてプレゼンテーションがあり、その後質疑応答があった。

<質疑応答>

D 委員：収支予算書に記載のあるゲスト招聘代 100 万円は、何人のゲストを想定しているのか。

申請者：有名かつ影響力のある 1 人での想定でいる。これが最も効果的であると考えている。

C 委員：ダンス審査員への報酬が収支予算書に記載がないが、どういった考えか。

申請者：記載はないが、報酬の支払いは考えている。そこまで高くなることは想定していない。

E 委員：来場者予定数は 3,000 人と記載があるが、市内の方、市外の方はどういった配分か。

申請者：市内の方で 3,000 人を超えたいと思っている。市外の方が多く来られると 4,000 人、5,000 人となっていくのではないかな。

A 委員：ダンスに関するイベントは他自治体でも開催している。茨木市独自の要素や他との差別化はどう考えているか。

申請者：茨木市はそもそもダンスの歴史が長く、発達している地域である。ダンスコンテストの取り組みは 30 年ほど続けており、既にしっかりと地域に根付いた文化であると考えているので、ここで開催する意義はあると思う。

(3) 地域魅力アップイベント創出育成事業申請案件：

3 件目の Let's 遊ビバ実行委員会（以下申請者）から、事業概要及びアピールポイント等についてプレゼンテーションがあり、その後質疑応答があった。

<質疑応答>

A 委員：このイベントは既存の茨木のイベントの集合体のような印象を受けたが、その認識で良いか？

申請者：その認識で間違いない。茨木には夏には茨木フェスティバルといった大型イベントがあるが、冬にはないので今回の提案に至った。

A 委員：本補助金はイベントに関して茨木独自の特色と持つこととしている。今回の提案に関してはどういった部分が該当するか。

申請者：市内にあるさまざまな事業者と連携を図りながら、特色を見出していきたい。特に商工会議所には強く連携を図っていききたいと考えている。

E 委員：団体の会員数が 6 人で、市外の人が多い印象だが、イベントの実施にあたって支障はないか。また、どんなイメージで進めていくのか。

申請者：さまざまな団体に協力を仰ぎつつ、本イベントに関しては私自身である程度動かしていくイメージである。過去にも同規模イベントでの実績がある。

B 委員：本イベントを茨木市で開催する意義はどういった部分にあるか。また、こういった形で茨木市の魅力アップにつなげていくイメージを持っているか。

申請者：おにクルが現時点での茨木市の最も大きな魅力であると考えているので、おにクルに近い場所で開催することに意義があると考えている。また、さまざまな事業者と連携しながら魅力の発信をめざしていきたい。

4 件目の IBARAKI JAZZ CLASSIC FESTIVAL 実行委員会（以下申請者）から、事業概要及びアピールポイント等についてプレゼンテーションがあり、その後質疑応答があった。
＜質疑応答＞

D 委員：市内 6 か所でイベントを実施されとお聞きしたが、これは複数のアーティストが回っていくイメージか。

申請者：そのイメージで間違いない。会場数の増設も検討している。

C 委員：おにクルを使わない理由は何かあるか。

申請者：2 点理由があるが、一つは施設の利用が可能な日程がなかなかないこと。2 つ目は、おにクルは「ハレの場」というイメージが強く、本イベントは日常に溶け込んだイベントをめざしているためである。

A 委員：本補助金の対象になるのは次回が最後だが、今後はどういった資金面でどういった運営をめざしていくのか。

申請者：協賛金を増やしていけるように尽力していく。また、市民演奏者の枠を増やすことで、プロの演奏者への報償金を削減していく。

5 審査結果

(1) 地域魅力アップイベント創出育成事業申請案件

①CO-クリエーションデザイン smileinfeel

500 点中 354 点 ⇒ 採択案件

②IBARAKI DANCE STREET 実行委員会

500 点中 349 点 ⇒ 採択案件

③Let's 遊ビバ実行委員会

500 点中 318 点 ⇒ 不採択案件

④IBARAKI JAZZ CLASSIC FESTIVAL 実行委員会

500 点中 372 点 ⇒ 採択案件

＜選考基準＞

出席委員の評価点合計の 65%以上（100 点×5 人×65%=325 点）を取得した事業を、採択案件の候補とする。

ただし、上記基準を上回る事業であっても、個人の総得点の 1/2（100 点×1/2=50 点）以下の点数を付けた委員がいる場合は、協議のうえ採択候補案件を決定する。

以上